

投影用

2023 / 5 / 29 (水)
14:00～16:00(30分予定)

令和6年度農林水産省経営局
地域計画の策定に向けたWEB意見交換(第11回)

「残り10ヶ月 どうする 地域計画の策定！」

— 今後の協議の具体的な進め方 —

無断での録音
・転用・複写は
禁じます

地方考夢(こうむ)員®研究所長
(一社)全国農業会議所専門相談員
澤 畑 佳 夫

講 師： 澤 畑 佳 夫（さわはた よしお）



昭和33年2月生，元茨城県東海村農業委員会事務局長（平成28・29年度）。1年間の再任用職員も経験し，平成31年3月末に退職。農委事務局長時に全農地を対象とした5年後の農地利用意向調査や**日本人向けのファシリテーション**を活用した農業集落座談会等を企画・実施し，その結果を基に農地中間管理事業を活用した大幅な農地集積等を行った。その手法や考え方は，これからの農地集積・集約，遊休農地の発生防止，解消等の先進事例として全国から注視されてきた。現在，農業分野をはじめ行政・JA・団体・企業等も対象に現場出身者ならではの目線で「初めての方でも分かり易い」講演や研修を行っている。その受講者はこれまでに「**43都府県約3万人**」、受講後のアンケートでは満足度が常に90%を超えている。「農業を通じたまちづくり」「住民（子どもを含む）と行政の協働によるまちづくり」を提唱しながら，参加者の思いをカタチに出来る話合い（合意形成）を目指し，日々多忙な毎日を送っている。**現在5つの市町村(県内・外)のアドバイザー兼ファシリテーターとして活動中。**

現職：地方考夢員®研究所代表 （一社）全国農業会議所専門相談員（令和元年度からの委嘱）
総務省地域力創造アドバイザー（令和4年度から）→**特別交付税でアドバイザーの謝金・旅費を支援**
（一社）ソトコト（ソーシャル&エコ・マガジン）流域生活研究所長
（一社）MFA（会議ファシリテーター普及協会）公認ファシリテーター

【個別無料相談問合せ先】 090-4948-3575 E-mail : s-gonta@ozzio.jp

現在、各地にお邪魔したり、情報交換・提供をいただく中で、県間、市町村間、地域(集落)間での現況に関して「**格差**」が広がっている」と感じている。

そして、当たり前の「**目線**」が大きく異なっている。

ここ数年は新型コロナの影響で、といっている方が多いが、
実は **長年** **の取組み姿勢(風土)**に思える

➡ これから話す内容が皆さんの市町村や職場には該当しない、又は対応済みと言えれば良いと思うのだが・・・ 3

「人・農地プラン」とは 地域(集落)における
「**農業**の未来設計図」のことです

↳ 「農業を通じた**持続可能なまちづくり**」が目的

同じ県・市内でも、状況・条件が違う。
まして隣の地区（集落）でさえ全然異なる。
平地それとも中山間地？ 段差・傾斜はあるか？
耕作者は年配の方、それとも若い方が多いか？ 等

既存の組織
を活用出来るのか？
農家組合長
集落営農組織 等

2012年度に「人・農地プラン」づくりがスタート、その後事業実施、
2018年度から「**実質化された人・農地プラン**」づくりがスタート
2021年度までに完成させたことになっている。そして、2022年度
から「**実質化された人・農地プラン**」も踏まえて「**地域計画**」づくりが
進められており、**今年度中の完成**を目指すことになっている。

2024年度中の完成を目指すというが・・・

1 農繁期は座談会等への招集が出来ない(1～2ヶ月?)

2 事務手続き(2～3ヶ月?)

- ①協議の場の結果公表
- ②地域計画(案)について関係者からの意見聴取
- ③ “ ” の公告、2週間の縦覧
- ④地域計画の公告

実際に地域の農業に関する将来像や目標地図作成に向けての地域、関係機関・団体等との調整、協議が出来る期間(時間)は「残り180日前後」になると考えられるが

皆さんの市町村の進捗状況は如何か？

何から行えばいいのですか！

前担当者から「**引継書**」に今年度中に「**10カ所**」地域計画を作成すること、と書かれていたが今からでは間に合うとは思わない。その他の業務が忙しくて、前年度まで殆ど動けなかった、というが。しかし、このままでは、「担い手」の方たちに迷惑をかけてしまう。



10カ所一斉スタートを考えている

独りで悩まないで、
改めて、部課長・
農委事務局長の
考え(指示)仰ぐこと



ゼロか百か
ではなく、
優先順位
を考えて

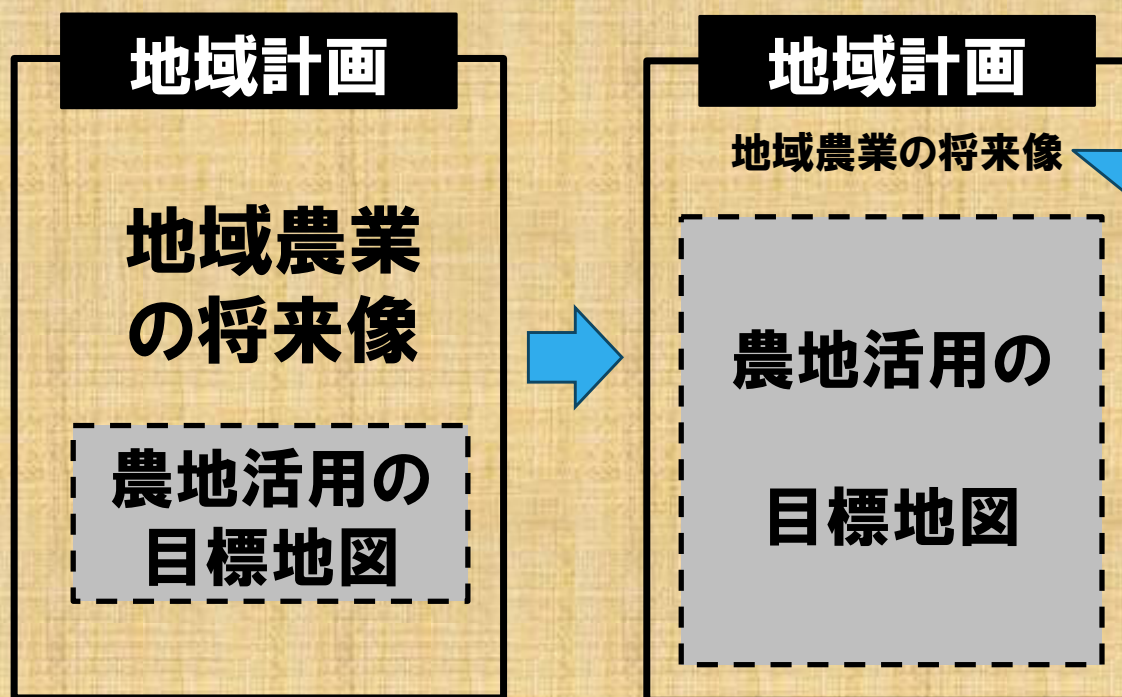


行政からの**情報を提供**した上で
◎地域から手が上がったところ
◎補助金等の活用を考えている
地域、担い手等がいるところ

現状は？（私見）

地域計画＝地域における農業の将来像＋目標地図

↳ 農地活用も含む



本当は「将来像」
を皆で考えること
からスタートする
ことが重要だと
思うのが！

「地域計画」づくりにおける
5つの協議・合意形成

⑤地域での合意形成
(座談会等のスタート)

④認定農業者、集落営農法人、農業法人等との協議・合意形成

③農業委員・農地利用最適化推進委員との協議・合意形成

②市町村内外の関係機関・団体(JA,土地改良区等)との協議・合意形成
(例)県:農業経営基盤強化促進基本方針、 JA:次世代総点検運動

①庁内の協議・合意形成 (例)市町村:農業経営基盤強化促進基本構想

再
確
認

基礎調査

地権者・耕作者等への利用意向調査等(全域)



達
成
度



現在

時 間 →

地域計画 ≡ 「実質化された人・農地プラン」 ＋ 目標地図

◎地域の話し合いで具体的に何を決めるのか！

1. 地域における**農業**の将来像
（10年後）を決めること

2. ①も踏まえながら地域における将来（10年後）の「**農地**活用の目標地図」を描くこと

但し、既に動き出しているので、今からの変更は厳しい、という市町村は、
「**現在の手法を継続する**」ことになるのだろうが・・・

1 地域における**農業**の将来像

農業関係者のみならず**多様な人材**を招集して
座談会等の方式で進めることが有効



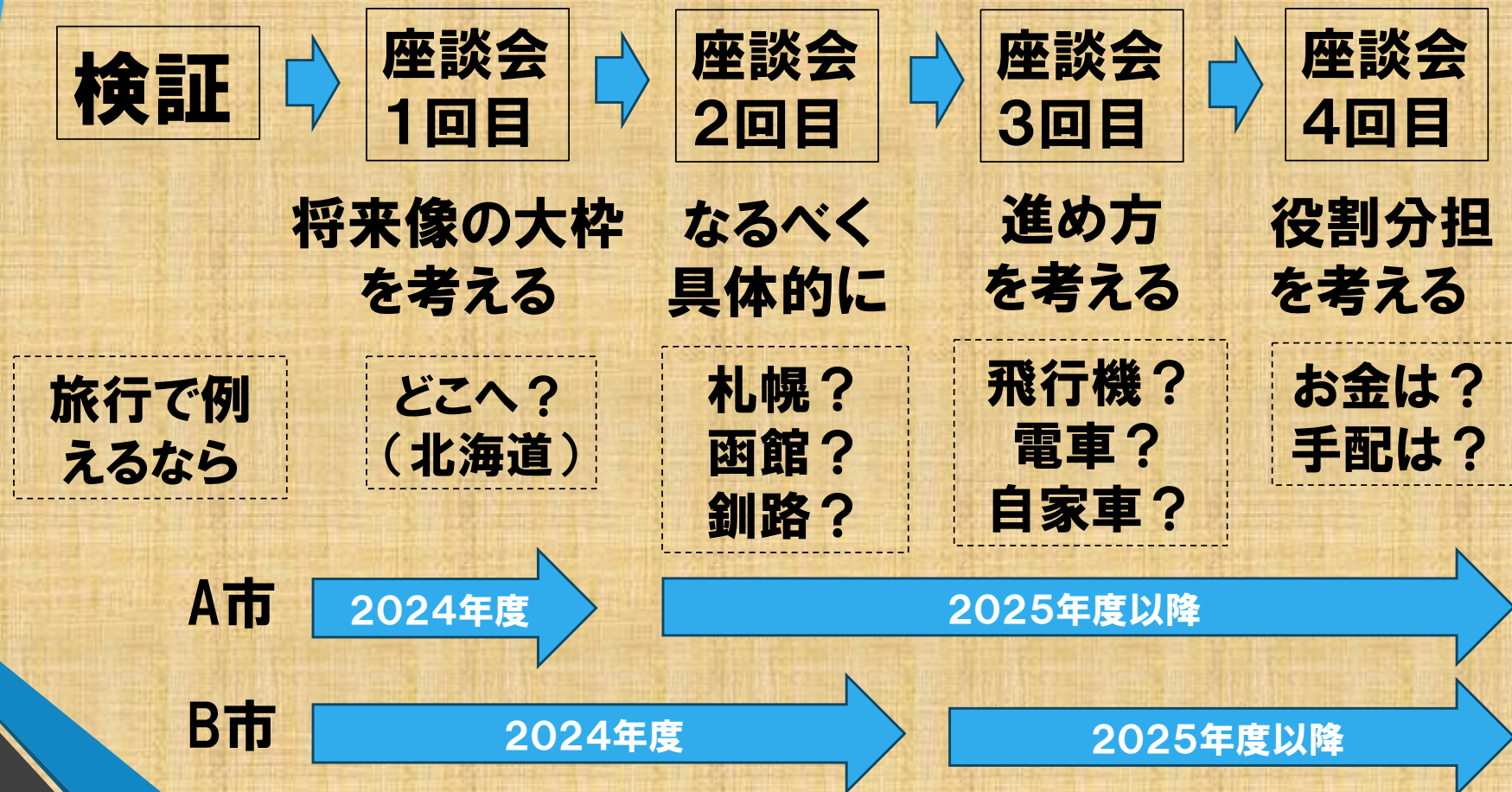
「**農業**」について農家や農業関係者だけで考えていく時代ではない



なぜなら、農業の課題が「**地域**」の課題になっているからだ

議会議員、自治会・町内会の役員、大学生、農業大学の学生、高校生、加工業者、流通業者、商工会議所、青年会議所、JAの生産部会・女性部会、食生活改善委員等を巻き込んでいる市町村もある

1 地域における**農業の将来像**とその後の展開(例)

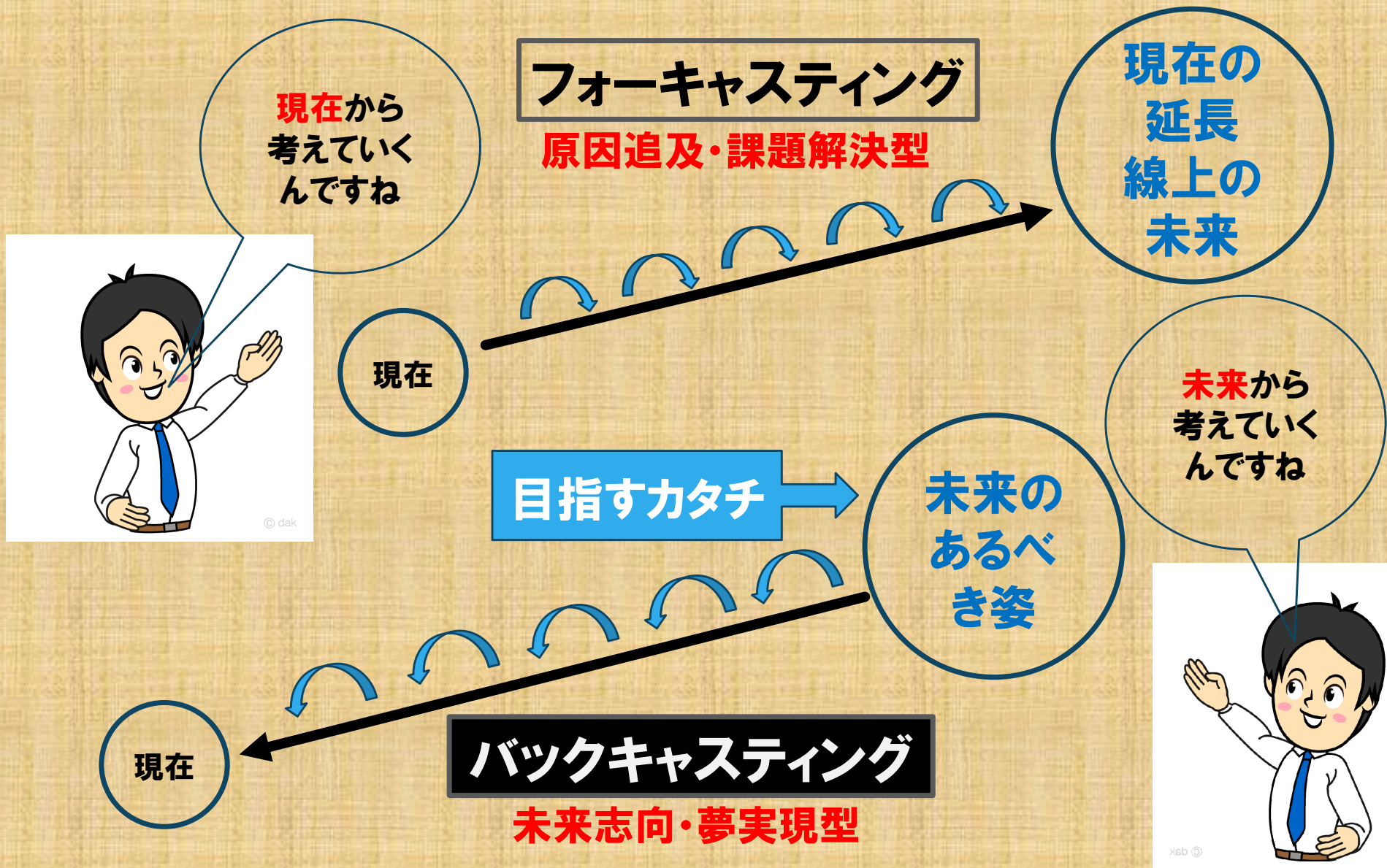


地域や団体等が『将来構想(像)』を描き 具現化していく手法には

- ①先に課題を定義して、その解決策を考えながら進める「フォーキャスティング」 ②あるべき姿を定義して、その実現手段を考えながら進める「バックキャスティング」の2つの手法が考えられる。

課題とは

「あるべき姿」と「現状」のギャップのことと定義し、課題解決とは、そのギャップを埋めていくことと考える。



フォーキャスティングとバックキャスティングの比較表

	フォーキャスティング	バックキャスティング
メリット	①過去の経験、情報を元に周囲の理解も得られ、結束しやすい。 ②現在のリソースを活かしやすく、短期的な実行力がある。	①具体策や正解がすぐにはわからないものの解決に適している。 ②飛躍的なアイデア、これまでになかった新しい発想が生まれやすい。 ③選択肢に制限がなくなる ④<u>目先の利害関係を超えたパートナーシップ</u>も築くことができる。
デメリット	①経験の範囲内で考える為、未経験で不確実な未来の計画に向いていない。 ②短期的は力を発揮するものの、<u>根本的問題の解決にはならないことがある。</u> ③大きな方向性とズレがあっても気づきにくい。「前もうまくいったから。」と楽観的に考えがち。 ④選択肢が偏ったり、制限されやすい。	①解決方法に不確実性が高く、実現が困難のものも出てくる。 ②理想の未来像がしっかりと共有できないと結束することができない。 ③短期的なアクションには向いていない。

2 目標地図を描く

10年後も耕作をする、或いは考えている方等を中心に招集して調整会議等の方式で進めることが有効

↓
この招集した方々が中心となって、農業委員会が作成した素案(たたき台)を元に目標地図(案)を描いていただくことが重要。そこに、農業委員、農地利用最適化推進委員が調整役?として参加出来ればなお良い。

↓
数回実施 →

出来上がった(案)を説明会というカタチで地権者等に報告し、協力依頼する

「計画(プラン)ごとに(例えば多面, 中山間直払い、基盤整備等)地域が目指す将来像がバラバラに記述されている・・・

座談会で「地域計画」を作る、という説明ではなく、座談会に参加した皆さんの「**思いや考え**」、そしてこれまで実施したアンケートの結果等を踏まえて「**皆で地域の将来像**」を考え、行政が「地域計画の様式」の中に埋め込んでいく、という発想が重要ではないか、と思う

地域の将来像を行政が先に提示することには問題はないか

「地域計画をつくるための座談会」から

「**地域農業の未来を考える座談会**」へ

➡ (仮称)「〇〇地域の農業の未来を考える会」発足へ

沖縄県中城村

キックオフセミナー(2024・4・25)

浜田村長あいさつ 伊佐議会議長あいさつ



和宇慶土地改良区A 農業の未来を考える座談会 1回目(2024・5・14)



**地域計画の策定は「手段」であり、
「目的」ではありません**

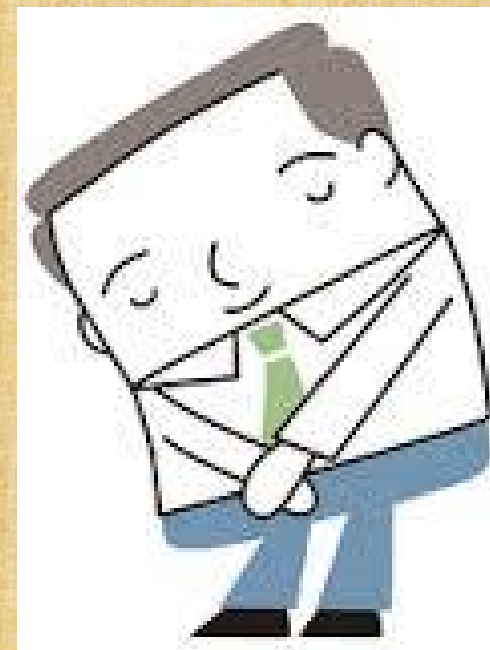


策定後からが本番(スタート)です



**皆さんの具現化に対する行動が期待
されていることをお忘れなく！**

皆さんのまちを、
より元気にするのは
「**皆さん**」です



「出来るか出来ないか」ではなく
「**やるか、やらないか**」だと思うのです

一人で悩まず一緒に汗をかきましょう！

ご清聴ありがとうございました